

DME実用化へ扉

産総研新燃料技術研／セミナー

新潟運輸 8月からテスト
トライネットロジ

【沢田顕嗣】産業技術総合研究所の新燃料自動車技術研究センター（後藤新一センター長）は十六日、新潟、神奈川の両県や新潟市の後援を得て、

「DME（ジメチルエーテル）セミナー2009」を開催した。サブタイト

ルに「実用化へ扉を開いたDME」を掲げ、新エネルギーとして注目されるDMEの普及に向けたシナリオを確認。この中で、運送事業者二社が八月から九月にかけて走行実験を開始するほか、北九州市でもテストを検討していることが報告された。

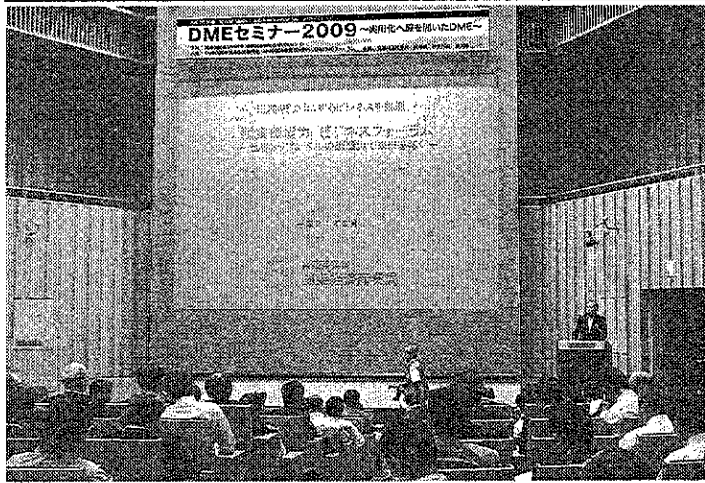
関東経済産業局の塚本修局長が「DMEは未来の燃料として期待が持てる」と思っている。コストが課題となるが、クリーンエネルギーであることに意味があり、「石油価格高騰の抑止力にもなる。関係者が一堂に会するこ

とにより、DMEの新しい扉を開いてほしい」と激励した。後藤センター長は基調

講演を行い、「DMEは百年前に存在を知られ、一九六五年くらいから製造されている。エネルギー収支の点でもポテンシャルが高い」と説明。新潟運輸（山田博義社長、新潟市中央区）が病院への透析液輸送に活用し、トライネット・ロジ（信岡正章社長、東京都江東区）は樹脂成型用素材輸送に利用するという。

DMEは天然ガスや石炭、バイオマス（生物資源）などを原料に精製。排ガスに硫黄酸化物（SOx）やすすを含みます、窒素酸化物（NOx）や粒子状物質（PM）の発生を大幅に抑制する上、二酸化炭素（CO₂）も削減するクリーン燃料。スウェーデンや中国、ロシアでも自動車用燃料として実用化するプロジェクトが進んでいる。

また、国際エネルギー機関（IEA）が二〇三〇年にかけて原油価格が高騰するとの見通しを示しているほか、〇六年五月に発表された「新・国家エネルギー戦略」では運輸部門の石油依存度を八〇％に低減する目標を設定。さらに、ポスト新長期規制後の一五年にも一段と規制が強化される模様で、その内容次第ではDME普及に大きな弾みがつく可能性が高い。



普及に向けたシナリオを確認